

# 広島県緑化センター 8月の開花マップ



**A** オタカラコウ



**B** カンレンボク



**C** キガンピ



**D** キキョウ



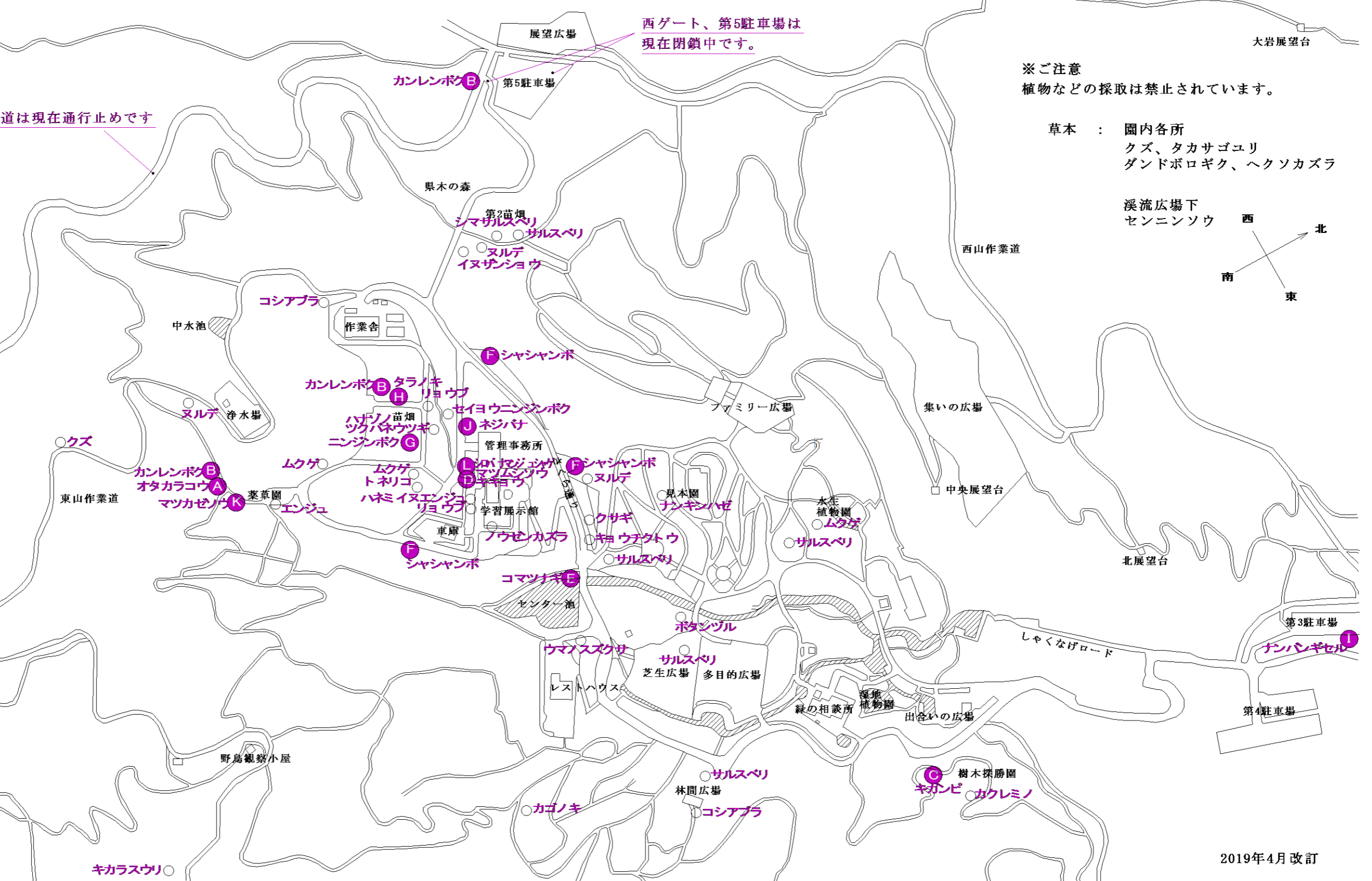
**E** コマツナギ



**F** シヤシヤンボ



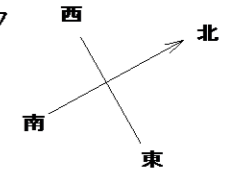
**G** セイヨウニンジンボク



※ご注意  
植物などの採取は禁止されています。

草本 : 園内各所  
クズ、タカサゴユリ  
ダンドボロギク、ヘクソカズラ

溪流広場下  
センニンソウ



2019年4月改訂



**H** タラノキ



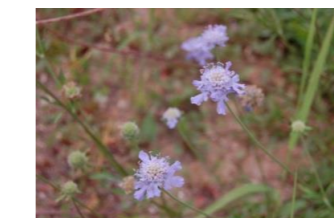
**I** ナンバンギセル



**J** ネジバナ



**K** マツカゼソウ



**L** マツムシソウ

ここに掲載のない植物写真や、植物の詳しい解説は  
ホームページをご覧ください。

<https://ryokka-c.jp/guide/>



植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
イヌザンショウ	ミカン	サンショウ		第2苗畑、溪流路	7/26	林縁や道端などに生育、高さ3m。花は雌雄別株、7～8月に枝先に3～8cmの散房花序をだし、黄緑色の小さな花を密につける。果実は3個に分かれ、9～10月に熟す。サンショウは刺が対生するが、本種は葉や果実に香りが少ないことで区別できる。	
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ		レストハウス入口坂	7/15	花は横向き、萼はラッパ状で長さ3～5cm、基部は球形。体内に有毒成分があり、この草を食草としているジャコウアゲハは、毒のあるチョウとして鳥に襲われることが少ない。和名は果実が馬の首にかける鈴に似ていることによる。	
エンジュ	マメ	エンジュ		薬草園入口	7/21	中国原産で庭木や街路樹として植栽され、高さ20mほど。樹皮は、灰褐色で縦に割れ目が入り、内皮は黄色で臭気がある。花は7～8月、枝先に約30cmの円錐花序をだし、黄白色の蝶形花をつける。果実は豆果で長さ4～7cmで数珠状にくびれる。	
オタカラコウ	キク	メタカラコウ		薬草園奥	8/27	深山の沢沿いなどに生息し、高さ1～2mになる大形の多年草。夏から秋にかけて、黄色の花を総状につける。	
カクレミノ	ウコギ	カクレミノ		樹木探勝園	8/10	海岸に近い照葉樹林内に生育し、高さ3～8m。本年枝は緑色になる。花は雌雄同株、7～8月に淡黄緑色の花をつける。果実は10～11月に紫黒色に熟す。ヒヨドリが果実を好んで食べる。	
カゴノキ	クスノキ	ハマビワ	コガノキ・カゴガン	林間広場上、樹木探勝園他	8/12	暖地に生え、高さ22m、直径1.5mになる。樹皮は灰黒色で、まだらに剥がれて白い鹿の子模様になる。花は雌雄別株。7～8月、無柄の散形花序に淡黄色の花を数個つける。果実は倒卵状球形の液果で、翌年7～8月に紅色に熟す。	
カンレンボク	ミズキ	カンレンボク	キジユ	苗畑	8/18	中国南部原産。花は雌雄同株、7～8月に枝先に球形の花序を3～5個つけ、雌花序が上で雄花序が下になる。果実は10～11月にバナナ形の果実が球状に集まる。果実や根にカンプトニンというアルカロイドを含有、制ガン作用が認められている。	
キカラスウリ	ウリ	カラスウリ		東山作業路	8/2	多年生のツル草。花は雌雄別株、日没とともに開花し、5裂した白い花冠の先は細かく糸状に裂け、レース状に広がる。果実は球状、黄色で約10cm。根のでんぷんからあせもに効く天花粉をつくる。	
キガンピ	ジンチョウゲ	ガンピ	キコガンピ	樹木探勝園	7/26	本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布し、山地の日あたりのよい林縁や岩場に生息する。花は7～9月、枝先に黄白色の花を数～10個つける。果実は乾いた核果で、核は長さ3cmほどの紡錘形。樹皮は和紙の原料にされる。	
キキョウ	キキョウ	キキョウ		管理事務所前	7/19	日当たりのよい山地などに生え、高さ50～100cmの多年草。花は7～9月、茎の先に直径4～5cmの鐘形の青紫色の花が数個咲く。秋の七草の朝貌はキキョウのことだと言われる。	
キョウチクトウ	キョウチクトウ	キョウチクトウ		センター池下	6/14	インド原産で江戸時代中期に渡来したと言われる。花は6～9月に枝先に集散花序をだし、次々に花を開く。花色は、ピンク・赤・白など、八重咲き品種もある。果実は10～14cmの線形で、直立して付き、熟すと縦に裂けて種子を出す。	
クサギ	シソ	クサギ		見本園スロープ 沿い他	7/31	日当たりのよい山野の林縁などに生育し、高さ4～8m。花は7月下旬～9月に枝先や上部の葉腋から集散花序を出し、芳香のある花を多数つける。果実は6～7mmの球形で10～11月に熟し、光沢のある藍色になる。	
クズ	マメ	クズ		園内	7/16	山野で普通に見られる大型のつる性草本。葉は3小葉。7～9月に紅紫色の蝶形花が穂状に集まって咲く。根にでんぷんを含み、これを葛粉にして食用、薬用に供する。和名は奈良県の国栖(くず)が葛粉の産地であったことによる。	
コシアブラ	ウコギ	コシアブラ	ゴンゼツノキ・ゴンゼツ	林間広場		山地の林内に生育し、高さ5～20m。花は8～9月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は10～11月に紫黒色に熟す。若い葉は香りがあってやわらかく、山菜として食用されている。	
コマツナギ	マメ	コマツナギ		センター池ほとり	8/19	草地や川の土手、道端などの日当たりがよく、やや乾いたところに群生する。高さ40～80cmの草本状の小低木。葉は奇数羽状複葉。小葉は7～13個ある。葉腋に長さ4～10cmの総状の花序をだし、淡紅紫色の花をやや密につける。	
サルスベリ	ミソハギ	サルスベリ	ヒヤクジツコウ	和風庭園他	8/4	中国南部原産で江戸時代以前に渡来、高さは大きいもので10mになる。花は7～10月に百日近くわたって咲き続ける。花色はピンク・白・赤などがある。名前の由来は、木肌がなめらかで、猿もすべり落ちるという意味から。	
シマサルスベリ	ミソハギ	サルスベリ		第2苗畑	9/5	林内や林縁に生育し、高さ20m。本年枝は4稜あり、葉は対生または互生。花は6～8月、枝先の円錐花序に白い花を多数つける。果実は7～10mmの楕円形で熟すと6裂する。	
シャシャンボ	ツツジ	スノキ	サンブノキ・ワクラハ	さくら通り、車庫横法面	7/27	花は5～7月、3～8cmの総状花序を出し白い花を下向きにつける。果実は9～10月に紫黒色に熟し、甘酸っぱくて食べられる。名前は小さな実が多数つく様子を小さい坊や「小小ん坊」と呼んだものが転訛したと言われる。	
シロバナマンジュシャゲ	ヒガンバナ	ヒガンバナ		管理事務所前	8/29	人里に近いところに群生する多年草。昔、中国から渡来したものが広がったといわれる。9月にりん茎から30～50cmの花茎をだし、花を輪状につけ、花後に線形の葉を広げる。本種の花は白色で、和名は彼岸のころ咲くのでつけられた。	
セイヨウニンジンボク	シソ	ハマゴウ		苗畑	7/12	南欧原産の落葉低木。花は両性、7～8月に開花する。枝先に円錐花序を出し、淡紫色の花を密に多数つける。果実は球形の核果。類似種のニンジンボクは、小葉が3～5枚で粗い鋸歯が目立ち、花は淡青紫色でまばらにつく。	

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
センニンソウ	キンポウゲ	センニンソウ		溪流路広場下	7/19	日当たりのよい山野や道端などに生える木質のつる性植物。葉の腋に白い花を多数つける。葉は3～7枚の小葉からなる羽状複葉。有毒植物。	
タカサゴユリ	ユリ	ユリ		園内	8/15	花はテッポウユリより細長い形になり、乳白色で筒部の外側に赤いすじが入る。テッポウユリは赤いすじは入らない。花被片の先は強く反り返る。花粉は赤褐色、テッポウユリは黄色。	
タラノキ	ウコギ	タラノキ	タランボ	苗畑	8/18	花は8～9月、幹の先端に淡緑白色の小さな花を多数つける。樹皮には刺が多い。新芽はタラの芽として山菜人気があるため、野生のタラノキは減少している。保護のためにも芽の収穫は1回だけにとどめ、幹の伐採は絶対慎みたい。	
ダンドボロギク	キク	タケダグサ		園内	7/17	北米原産の帰化植物、高さ50～150cmの1年草。伐採跡や崩落地で真っ先に育ち、群落をつくる。枝分かれした茎の上部に多数の筒型で2～3cmの頭花をつける。冠毛は白く、風に乗って飛び散る。名は冠毛をボロに例えたことによる。	
ツルマンリョウ	サクラソウ	ツルマンリョウ	ツルアカミノキ	立石山下、長者山への散策路沿い	8/13	高さ0.5～1mの常緑小低木。花は雌雄別株で7～8月に白色～緑白色の花が咲く。果実は翌年の9月頃赤く熟す。珍しい植物で奈良や山口の自生地は国の天然記念物に指定。広島県では絶滅危惧Ⅰ類に指定。	
トネリコ	モクセイ	トネリコ	タモ	苗畑	7/27	奇数羽状複葉、小葉は2～4対、長さ5～15cm。花は芽吹き時に咲き、花弁がなく茶色い雄しべが目立つ。稲を乾す稲架木として田のわきに植栽される。	
ナンキンハゼ	トウダイグサ	ナンキンハゼ		見本園	7/10	中国原産の落葉高木で江戸時代に渡来。花は7月、枝先に黄色の小さな花を多数つける。秋の紅葉も鮮やか。種子の表面はロウ質に包まれていて、このロウを精製しロウソクや灯用に用いられた。	
ナンバンギセル	ハマウツボ	ナンバンギセル	オモイグサ	第3駐車場、西ゲート向	8/29	1年生の寄生植物で、ススキやミヨウガなどの根に寄生。葉の腋から花柄を直立し花をつける。和名は南蛮煙管で花の形によるもの。別名のオモイグサは万葉集の歌にもある。	
ニンジンボク	シソ	ハマゴウ		苗畑	未確認	中国原産の落葉低木。葉は掌状複葉で対生、小葉は楕円形で粗い鋸歯が少しある。花は両性、7～8月枝先に円錐花序を出し、淡青紫色でまばらにつく。果実は薬用に利用される。類似種のセイウニンシソは、小葉が5～7枚で細長い。	
ヌルデ	ウルシ	ヌルデ	フシノキ	さくら通り法面下他	8/25	花は雌雄別株、8～9月に白色の小さな花を円錐状に多数つける。果実は10～11月に黄赤色に熟す。幹を傷つけると白色の樹液がしみだし、器具などに塗ったことからヌルデといわれる。葉にできた虫えいは五倍子と呼ばれ、薬用や染料などに利用される。	
ネジバナ	ラン	ネジバナ	モジズリ	管理事務所前	7/8	日当たりのよい草地や芝生に生える多年草。土中には白色で多肉の紡錘根がある。葉の間から高さ10～30cmの花径を出し、桃紅色の小さい花が多数つく。花茎は緑色で上部がねじれ、毛がある。	
ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ		学習展示館	6/26	中国原産で平安時代に渡来したと言われる落葉つる性木本。付着根を出して樹木や壁面に這い上がる。花は7～9月に枝先から垂れ下がった円錐花序に橙赤色の大きな花をつける。果実はほとんど結実しない。	
ハナゾノツクバネウツギ	スイカズラ	ツクバネウツギ	アベリアハナツクバネウツギ	管理事務所前法面他	6/29	よく分枝して茂り、高さ2mほど。花は6～10月、枝先や葉脈から円錐花序をだして、1.5～2cmの漏斗状の花を多数つける。花は白色でふつうやや淡紅色を帯びる。花後に萼片が残りよく目立つ。結実はない。	
ハネミイヌエンジュ	マメ	イヌエンジュ		学習展示館裏法面	8/2	花は7～8月、枝先に総状花序を数個出し、長さ7～10mmの白い蝶形花を多数つける。旗弁は後方に強く反り返り、がくに接する。枝は折るとソラマメに似た臭気をする。	
ヘクソカズラ	アカネ	ヘクソカズラ	ヤイトバナ	園内	7/24	林縁や藪などに生える多年生つる草。8～9月に筒状で、内側が深紅色の花を咲かせる。全体に悪臭があることから名がついた。別名は花の中心が赤く、お灸(ヤイト)の跡に似ることによる。	
ボタンヅル	キンポウゲ	センニンソウ		芝生広場横	8/3	日当たりのよい山野に生える落葉つる植物。白い花が群がってつき、4個のがく片が平開。葉は3出複葉で対生。名前は葉が牡丹に似ることによる。	
マツカゼソウ	ミカン	マツカゼソウ		東山作業路、薬草園	7/26	暖地の林縁に多く、高さ50～80cmの多年草。枝先に花序を出し、白色の小さな花を多数つける。葉には油点があり、もむとかんきつ類のような香りがする。名は秋風に揺れる草の姿から風流人が名づけたとされる。	
マツムシソウ	スイカズラ	マツムシソウ		管理事務所 駐車場前法面	7/22	山地の草原に生える2年草。根生葉はロゼット状で冬を越す。花は紫色、直径4cmほど。上向きに咲く。縁の小花は5裂し、外側の裂片は大きい。	
ムクゲ	アオイ	フヨウ	ハチス	見本園	6/25	各地で栽培され植栽されおり、高さ3～4m。花は8～9月、本年枝の葉脈に花をつける。花弁の色は様々で一重・八重咲き等がある。韓国の国花。	
リョウブ	リョウブ	リョウブ	ハタツモリ	学習展示館裏法面 苗畑前園路他	6/30	丘陵や山地の尾根、乾いた落葉樹林内に多く、高さ8～10m。樹皮は茶褐色で古くなると不規則な薄片になってはがれ落ち、まだら模様になる。花は6～8月に枝先から10～20cmの総状花序をだし、白い花を多数つける。	